

# 『八代市厚生会館のホール再開を求める会』通信 vol.01

八代市厚生会館ホールは、別館の解体工事に伴い2019年6月から「休館」とされたまま、2021年5月号の『広報やつしろ』で、突然「ホールとしては再開しない」という方針が小さく告知されましたが、未だにご存じない市民が殆どという現状です。

厚生会館は、場所性・歴史・景観・建築的価値・文化的なポテンシャルから、単なるホールではない、別格の「市民の宝」です。重厚でクラシカルな佇まい、1000人が一流の生音を体感できるワンホールという希少性は、これから主流となるデジタルネイティブ世代にとっても魅力を増す地域資源です。

八代市は、「座席数が少ない」、「改修費がかかる」ことを理由に、「もっと席数の多い、採算性と利便性を備えたホール」を複合施設として作る方針です。

厚生会館建設時16万人(合併分合算)だった八代市の人口は、現在12万人余。20年後には9万人と言われています。過疎化・人口減が進む中、過大な席数のホールの維持・運営費は将来の市民の「負の遺産」とならないでしょうか。改修費とは比較にならない莫大な建設費も次世代の借金となります。身の丈に合わない新ホールで「最新設備」を競うより、せっかくの名ホールを、社会教育設備として官民一体となって生かしていこうという有志が繋がり、【八代市厚生会館のホール再開を求める会】の活動が、2021年12月より始動しました。

まさに善意の市民の集まりで、草の根運動であり、大きな組織や行政のバックアップがあるわけではありません。加えてコロナ禍で人が集まる機会が無いという悪条件の下、皆様のご尽力のおかげで、嬉しいことに署名活動は広がりを見せはじめています。

八代市民のみならず、全国へ八代を故郷とする方々、能楽関係、名演奏家、演劇、設備関係、会館竣工当時の技術者、建築士会、映画関係など、温かい励ましのお言葉も添えられた署名が続々と届いています。署名は2月中旬に集まったもので7000筆を超えました。実働ひと月あまりの草の根運動で、「真水」の7000筆は大変素晴らしいものです。

広がり始めた署名運動は、年度が替わった4月に市へ提出する予定で、更に積み上げていきたいと思います。つきましては、これまでに明らかになった問題点や取り組み、これからの予定などを『通信』としてまとめましたので、ご一読いただければ幸いです。皆様におかれましては、これまでのご尽力を心からねぎらいますと同時に、引き続き温かいご協力・支援のほどを、よろしくお願い申し上げます。

「市民の宝」を一緒に後世に引き継ぎましょう。

八代市厚生会館のホール再開を求める会  
発起人代表 森 精一

署名のご協力、誠にありがとうございます。期限を**令和4年4月10日に延長**しましたので  
もうひと踏ん張り、引き続きよろしくお願い申し上げます。

## ◆「厚生会館」に対する著名人の賞賛の言葉

「昭和15(1940年)初代市長に推された父は、「田園、工業、文化都市」を理想の旗に掲げました。殊に松井家に伝わる貴重な能楽を軸に、古いものも新しいものもいそろいどりに、音楽・演劇・舞踊などの活発な文化活動を期待したものです。もちろん産業、経済の繁栄によって市民の一人ひとりが豊かになることが第一でした。さらに教育、文化、芸術を愛好する品格ある市民を育てること、「八代市民格」の育成に心掛け、その殿堂として厚生会館もできました」

——●坂田道太(第37代厚生大臣)

「俳優は自分の肉体の力量の限度内で演技するとき、初めて自分の能力を全部ださることができる。その点、熊本県八代市や群馬県高崎市の会館は最も適当なものであると思う。この二つは特筆に値する。各席で見て楽しい、聞いて楽しい。そして舞台上で演技して楽しい。このようなホールこそ人間同士の繋がりができることを可能にする会館であると思う」

——●東野英次郎(俳優)

「こんな素晴らしいホールを使える八代市民は幸せですね」

——●志水隆(杉並児童合唱団)

舞台上に立った人にはわかる厚生会館の素晴らしさ。  
この言葉こそ厚生会館の価値を伝える声です。

「このホールは素晴らしい、本当に素晴らしい」

——●宇野重吉(俳優)

「良いホールですね!」

——●日本フィルハーモニー交響楽団

「県庁所在地でもない八代にこのような素晴らしいホールがあるとは驚きだ」

——●チェコフィルハーモニー交響楽団

「このホールなら弾き語りをしよう」

——●矢沢永吉(ロック歌手)

「八代市厚生会館、ここは良いホールですね」

——●野村萬斎(能楽師)

## ◆八代市厚生会館ホール再開中止決定とそれまでの経緯

1962(S37年)	●八代市厚生会館完成 (設計:芦原義信建築設計事務所 音響:石井聖光)	
1992(H2年)	●改修工事 芦原義信建築設計事務所	大規模な改修を設計と同じ芦原事務所が担当したことによって、建設当時のデザインが残され、これが後の評価につながった。
2009(H21年)	●耐震工事 芦原義信建築設計事務所	
2016(H28年)3月	●八代市厚生会館及び千丁・鏡文化センター運営方針策定	
4月16日	熊本地震 耐震工事が奏功してほとんど無傷	
5月12日	八代妙見祭保存振興会を初めとする関係4団体、八代民俗伝統芸能伝承館の整備について市議会へ陳情。	
6月	八代市・経済文化交流部 「八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)」の施設整備を含む課題の検討を行う庁内検討会議を立ち上げる。	
11月	●「平成28年 熊本地震 八代市復旧・復興プラン」策定	
2018(H30年)	●2018年度当初予算で「吊り天井改修設計業務委託」を予算計上しながら、実施せず →「業者の契約不履行があった」と市は説明。	
2018(H30年)8月	●八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)整備に係る市民ワークショップ開催(文化振興課) ・第1回:8月25日～第4回	
2019(H31年)2月	●「お祭りでんでん館」の基本設計完成	
6月1日	●厚生会館全館休館 八代市の説明→「伝承館(仮)建築工事に伴い、厚生会館は令和元年6月1日から全館休館します。休館期間は約2年間で予定しています。」	
7月	●厚生会館別館解体 →機械棟を解体→事実上「ホール使用不可」に	
2020(R2年)2月	●「八代市文化ホール等あり方検討委員会」設置 ※議事録はネット上に公開されています →「厚生会館ホール」を含む市内のホールのあり方を検討:計5回(～令和3年1月22日)	
6月1日～15日	●「文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート」実施 八代市→12万人の人口のうち、3000人に実施したアンケートで、1170人しか答えていない。	
2021(R3年) 1月29日	●「八代市文化ホール等あり方検討委員会」が最終報告書を市長に提出	
2月	●市の政策会議で「ホールを再開しないことを決定」	
3月11日	●「経済企業委員会資料 八代市厚生会館の今後の方針について」(改修費20億の内訳)	
5月	●「広報やつしろ」2021年5月号 〈暮らしの情報〉欄に「総合的に検討した結果、ホール(劇場)としては再開しないこととしました。(中略)	
6月	●お祭りでんでん館完成 設計:平田晃久建築設計事務所 →厚生会館用電源・空調設備の収容スペースはお祭りでんでん館の天井裏に確保されている (階段で上っていくことができる)。  ●国際学術組織DOCOMOMO(ドコモモ)の日本支部が、 八代市厚生会館を【日本におけるモダン・ムーブメントの建築】に認定と発表	
9月	●「熊本ヴォルターズ」の誘致署名活動が八代市全域ではじまる	
11月	●「広報やつしろ」(2021年10月号)の巻頭記事「この界隈がキテル」で、厚生会館の場所が空白として示される	
11月6日	●「熊本県南アリーナ」請願署名が48000人に達する →中村市長に署名を直接手渡す「決起集会」が新八代駅前のガメさん公園にて行なわれる。	
12月	●「八代市厚生会館のホール再開を求める会」発足 →ホール再開を求める署名活動を開始	

◆厚生会館の改修費比較

H29(2017)年4月・市営繕課が概算			R3(2021)年2月・業者が積算			合 計
客席改修	1億3,600万円	➡	客席改修(964席→734席)	2億2,206万円	2億2,206万円	16億6,567万円
吊り天井改修	2億1,300万円	➡	大ホール吊り天井改修	8,838万円	8,838万円	
舞台設備等改修	6億4,900万円	➡	舞台資材搬出入路整備	830万円	9億8,219万円	
			舞台床改修	273万円		
			客席沈下改修	940万円		
			舞台機構設備改修	5億4,961万円		
			館内照明関係LED化改修	5,902万円		
			舞台照明設備改修(LED化)	2億106万円		
舞台音響設備改修	1億5,207万円					
内外壁改修	2億円	➡	外・内部改修(クラック等)	798万円	9,809万円	
			外壁改修	3,857万円		
			屋上防水改修	5,154万円		
空調設備	1億8,200万円	➡	ホール空調設備改修	2億7,495万円	2億7,495万円	
合 計	13億8,000万円		【H29年 市営繕課概算には含まれていないと思われる分】			
※補足 この概算に機械室・高圧受配電設備・電気設備の新設・改修費用は入っていません。それらに相当するものは「お祭りでごん館」の建設費に含まれていたとされています。ただし、それがどうなったのかは不明。			主入口自動ドア改修(バリアフリー法)	1,413万円	6,110万円	
			外部スロープ新設(バリアフリー法)	525万円		
			外部階段等改修(バリアフリー法)	672万円		
			エレベーター新設(バリアフリー法)	3,500万円		
			楽屋周りドア改修(建築基準法)	110万円	110万円	
			機械室新設	6,931万円	1億8,736万円	
			高圧受変電設備新設	4,357万円		
			電気設備改修	7,448万円		
			防災設備改修(火災報知器、自家発電等)	4,499万円	1億3,258万円	
			給排水・消火設備改修	8,759万円		
			合 計	20億4,791万円		
			さらに、上記改修工事の設計委託費用	1億239万円		
※補足 バリアフリー法に基づく改修部分は、新築・増築・改築の際は義務化されているが、それ以外の際は努力義務、あるいは、優先順位をつけての実施が許されている。						

◆ホール再開のために私たちができること ～一人ひとりの活動がカギとなります！～

- 署名 **令和4年4月初旬**まで、「八代市厚生会館ホール再開を求める会」で署名を集めています。
- WEB署名 **キャンペーン【Change.org】** 芦原建築思想の「出发点」八代市厚生会館の維持・活用を求めます！
- 八代市経済文化交流部 **TEL:0965-33-4115 FAX:0965-32-8944**
- 八代市文化振興課 **TEL:0965-33-4533 FAX:0965-33-4516**
- 八代市長・教育長への手紙
  - ➡市長・教育長への手紙を送るにはどうしたらいいの？  
**〒869-4292 八代市松江城町1-25 「八代市長・八代市教育長」宛**  
**FAX:0965-52-8123 メール:info@city.yatsushiro.lg.jp**
- 県知事への手紙 **「知事への直行便」**とは、県政に対する県民の皆さんの素直なご意見、ご提案を知事が直接拝見し、今後の県政運営の参考にしたり、活かしていく制度です。  
直行便の封筒や用紙は、県庁(本館、新館受付)をはじめ、各地域振興局・その他県の出先機関・市町村役場・金融機関・百貨店等の県内約620カ所に設置されています。
  - ➡**〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号(行政棟 本館4階)**  
**メール:kouhou@pref.kumamoto.lg.jp**
- 新聞への投書 **熊本日日新聞「読者の広場」** ※400～600字以内  
必須項目▶ 郵便番号／住所／氏名(※匿名は不採用)／年齢／職業(無職の方はできるだけ元職)／電話番号
  - ➡**〒860-8506 熊本市中央区世安1-5-1 熊日「読者ひろば」係**  
**FAX:096-363-1268 メール:hiroba@kumanichi.co.jp**



◆「厚生会館のホール再開を求める会」活動報告

**勉強会** ●第1回「八代市厚生会館の凄さを知る講演会」  
2021年12月18日(土) @お祭りでんでん館

【演題】①「日本におけるモダンムーブメント建築」に選定  
／森山学(熊本高専教授)

②「ホールとして再開しない問題について」  
／笠井麻衣

③八代市厚生会館のホール再開を求める署名について  
／森精一(発起人代表)

●第2回 新春特別学習会「厚生会館を学ぶ 厚生会館から学ぶ」  
2022年1月10日(月・祝) @珈琲店ミック

【演題】①「厚生会館を学ぶ」  
／森山学(熊本高専教授)

②「厚生会館の音響について」  
／森精一(発起人代表)

③「市民の宝、厚生会館のホール再開を！」  
／笠井麻衣

④「厚生会館と歩む」  
／出水晃

★勉強会は今後も継続して開催する予定です

**八代市役所文化振興課との協議**

●2021年12月16日 10時～ @お祭りでんでん館  
→「八代市文化振興課」次長、課長、係長、厚生会館館長による経緯報告

●2021年12月28日 10時～ @八代市役所文化振興課(TSビル)  
→12月16日の報告内容で確認が取れなかった点についての協議

**八代商工会議所との協議**

●2022年2月3日 9時30分～ @八代商工会議所  
→専務理事、副会頭と協議…厚生会館ホール再開の署名協力要請  
結果▶「アリーナの結果が出るまでは協力できない」との返答

**署名活動**

→八代市内校区長へ署名活動の依頼  
結果▶「校区単位での署名回覧はできない」との返答

**広報活動**

→署名趣意書及び記名用紙、冊子「リトルプレス」印刷  
→「厚生会館ホール再開を！」幟旗 制作  
→「厚生会館のホール再開を求める会」通信 制作・発送

会計報告 (2022年3月3日時点)	
●募金	114,540円
○支出	
●趣意書・署名用紙 印刷(各1,000部)	13,125円
●お祭りでんでん館使用料	8,420円
●厚生会館リトルプレス 印刷	7,419円
●幟旗制作(10枚)	10,330円
●趣意書・署名用紙 増刷(各1,000部)	7,795円
○支出合計	47,089円
◎残高	67,451円

●署名を集めて頂いている皆さまへ

署名の住所は、同じ住所が続く場合(家族等)も、「同上」ではなく1欄ずつ正しい住所を記入してあるか確認の上、お届けいただきますようお願い申し上げます。

「同上」と書かれているものは全て事務局で住所を記入しておりますが、数が多いためなかなか追いつかない状況です。署名を集約されている方には大変お手数をおかけ致しますが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

氏 名	住 所
厚生 太郎	熊本県八代市●●町1234-5
厚生 花子	同上
厚生 一郎	同上
厚生 次郎	同上

皆さまのご理解・ご協力の程  
よろしくお願い致します。



事務局より

八代市厚生会館ホール再開を求める署名活動が始まって約3カ月。その間、新庁舎が完成し、厚生会館の芝生広場は市公用車の駐車場となつてしましました。芝生広場は芦原義信氏の外部空間論として「屋根のない建築物」の一部であつたスペース。その価値を守る事ができなかったため、今このような結果となつていきます。

今回の活動で最も強く感じたのは「文化を継承するには絶ゆまぬ努力が必要」ということ。今からでも遅くはありません。価値を知る者が伝える努力を日々実践し、これからの八代を担う若者たちに繋いでいくことしか残された道はないと感じています。今後は、①街頭署名活動の実施 ②署名活動の集約が主な活動となつていき

ます。皆様の募金のお陰で、署名用紙、幟旗等も制作することができました。心より感謝申し上げます。  
\*\*\*\*\*  
諦めたらそこで終わります。できる事は最後までやり切りたいと思います。皆様もどうか諦めず、一人でも多くの方に会館の現状と価値を伝え、八代の文化を守り抜きましょう。

LINE公式アカウントが  
できました!



当会より活動の進捗等の  
情報発信を致します。  
ぜひご登録ください。

『八代市厚生会館のホール再開を求める会』通信  
vol.01

2022年3月3日発行

八代市厚生会館のホール再開を求める会

お問合せ／090-1701-3353  
hallsaikai@gmail.com